

最も遠い 銀河発見

128億8千万光年

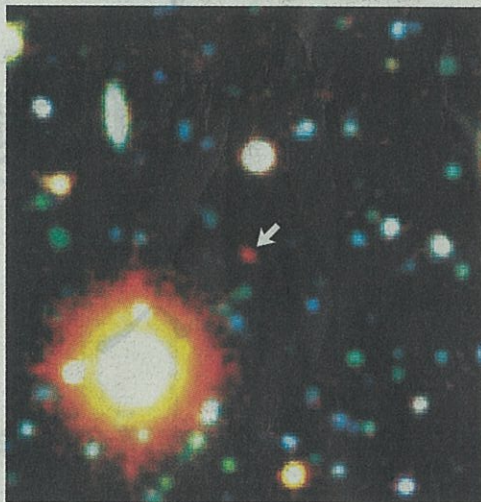
すばる望遠鏡

地球からの距離が約128億8千万光年と、これまでで最も遠く離れた銀河を、国立天文台や東京大などの研究チームが発見した。ハワイにあるすばる望遠鏡で観測した。約137億年前のビッグバンで誕生して間もない宇宙の様子をとらえ

たことになり、宇宙の進化の研究に役立つという。14日発行の英科学誌「ネイチャー」に発表する。従来、最も遠いとされていたのは、すばる望遠

鏡が05年にとらえた銀河で、距離は約128億2500万光年だった。今回、その記録を6千万光年ほど更新した。研究チームは誕生した

発見された最も遠い銀河(矢印) 研究チーム提供



ばかりの恒星の周囲にあるガスが熱せられて出する光をたよりに観測。かみのけ座の一角で新しい銀河を発見したという。

研究チームの冢正則・国立天文台教授(銀河物理学)によると、これまでの研究結果からの予想では、周辺に銀河が6個ほどあると見込まれていたが、1個しか観測できなかった。6千万年ほどの間に、宇宙空間の様子が変わった可能性もあり、家教授は「この時代の宇宙がどんな状態だったのか、さらに観測を続けたい」として